広報
おだわら
昭和55年12月20日

市制40周年記念特集号

編集・発行　小田原市役所広報課　印刷　文化堂印刷㈱
〒250　小田原市荻窪300番地
昭和29年10月15日　第3種郵便物認可

健康づくりの拠点として全天候型に改善された山角陸上競技場

明日の小田原の創造のために社会教育と文化活動の殿堂となる中央公民館

緑と水の豊かな都市のシンボルとして於鶴の水仙園に植栽

来年度中にはこの左一帯の林の中にキャンプ場などができる

小田原市長　中井一郎

一九八〇年代は「地方の時代」といわれ、その始まりの年である今年、本市は市制四十周年を迎えました。

人生にたとえれば「不惑」の年であり、明日の発展のために一層責任の重い時期にさしかかっています。

このときに当たって、歴史と伝統、そして豊かな自然に恵まれた私たちの郷土・小田原が、その地方の時代を開くために、今日の基盤を培った先人の歩みを理解するとともに、「地域の特性を生かした行政」を展開しなければならないと考えます。

このたび、市制四十周年の記念事業として取り上げました「目覚める小田原の歩み」の映画と記念誌の製作、城址公園のお堀の復活、「郷土と自然に恵まれ、合えて触れ合える環境の創造」の「緑と水の豊かな住みよい都市」の改修を彩る公民館の建設は、明日を担う市民のみなさんの健康と文化の向上のための拠点として、この世紀を展望した新しい市民社会の創造にも、市民のみなさんの参加を得て、現在検討中であります。

このように、四十周年を機に本市の輝かしい未来へ向かって決意を新たにして一層努力することをお約束するとともに、諸先輩はじめ市民のみなさんのこれまでのご尽力に対して心から敬意を表するものであります。

小田原市議会議長　尾崎　正

小田原市制施行四十周年を迎えるに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

古い歴史と伝統を持つ本市が、時代の移り変わりとともに、幾多の試練に耐えながら今日を迎えることができましたことは、誠に感慨深いものがあります。

当時は人口五万四千余の地方小都市にすぎなかった小田原市が、今では人口十七万七千余人を数え、県西地域における中核都市として、いろいろな役割を果たすまでに発展してまいりました。これも、ひとえに先人のご努力と市民のみなさま方のご支援ご協力の賜物であります。深く感謝申し上げる次第であります。

申すまでもなく、一九八〇年代は地域の特性を生かした個性豊かな地域社会を創造する「地方の時代」といわれております。こうした時代の要請の中で記念すべき日を迎えたわけでありますが、私どもも市議会といたしましても、この日を迎えたわけでありますが、躍する新たな起点としてとらえ、「緑と水の豊かな住みよい都市」と人と人との触れ合いを大切にした人間性豊かな地域社会の創造のため、一層の努力をしてまいらなければならないと存じます。

市民のみなさま方におかれましては、今後とも市政の進展のため力添えを賜りますようお願い申し上げまして、ごあいさつといたします。

目次

○ 明日に伸びる小田原 …… 2～3
○ 市制施行当時の小田原 …… 4～5
○ 再建から躍進の時代 …… 6～7
○ 伸張し繁栄する小田原 …… 8～9
○ 緑と水の豊かな住みよい都市 …… 10～11
○ 市制40周年の記念行事 …… 12

市制40周年記念特集号

明日に伸びる小田原

一九八〇年、今、小田原市は新たな躍動を始めています。二十一世紀を展望した「新小田原計画」の策定が、市民集会を柱に鋭意進められており、明日に向かって伸びる小田原の姿勢がこの中に盛り込まれようとしています。

国の第三次今三国総合開発計画、県の新神奈川計画、新県西地域広域市町村圏計画、こうした情勢のなかで、小田原の役割は非常に大きなものですが、これを踏まえながら本市の将来像を描いてみたいものです。そして個性あふれるまちづくりを目指して、小田原市は今再びの飛躍しようとしているのです。われらの小田原を担う子どもたちとともに豊かな明日が約束される小田原を願って……

地震に備えての自主防災組織の整備は市民の手によって進められている

市制40周年当時

人口	114,24 人
世帯数	17,013 人
住宅数	50,147世帯
電話台数	55,300 台
自動車台数	50,121 台
小学校数	24 校
中学校数	13 校
予算額	25,233,000千円

（昭和54年度1日現在）

都市計画道路「東町線」工事の現場を、ユニークな形状の新しい消防車が通り過ぎていく

お年寄りと子どもと、そしてみんなの心が通じあうまちづくりの日指してゆく

市制40周年記念
作文コンクール

市長賞

甥の日記より
2010年12月20日

城北中学校3年　山崎雅史

今年は市制七周年の年、市制記念日の今日、市役所での記念式典が行われたのです。伯父と見に行った。

朝八時、伯父が水道自動車で迎えに来る。天気は晴れ。街はかっとしかも暖かい。とりあえず、市役所へ。市長さんの挨拶があり、われわれ一般人は、土地に住んでいる人間にはそうは思えない。

車は緑を切って四角線の道路――市のすみずみを結ぶ一粒道路のうちの一本――をとばし、桜の花が満開の道路――市のすみずみを結ぶ一粒道路のうちの一本――をとばし、桜の花が満開の道路――市のすみずみを結ぶ一粒道路のうちの一本――をとばして行く。

田園地帯から、準居住区、第二種居住区の標識を頭上に通り過ぎて、市街地に入っていた。樹木はぐっと減ってしまった。それでも家家を取り巻くように、葉を既に落としてしまった木々が、疲れている。時折り、他の自転車や、自動車、電車、通過列車、通過貨物列車が、ものすごくあわただしく、交通網の整備のため、ひと昔前の大混雑もあるという。

俺も、丁度、三十年前、おまえと同じ歳の時に未来の小田原について、その記念の作文を書いた事があったぞ。確かにテーマは――そうだ、未来の小田原っていうのだった。伯父は、正面をむいたままだった。（伯父もなぜ、俺と同じ歳の時に、未来の事を想像していたのかっ）とすれば、どんな未来の事を想像していたのだろう、と思ったが、それは、いつか、自分の胸の中に、しまっておこう、と思った。

小田原市街が視界から去ると、目前の視界がぱっと明るくなった。車は田圃の中を走っていた。きっと多公園がある。今日は晴れていたから、きっと多公園がある。今日は行って、上には富士山が見える。今日は、遠くの方に、小田原の人々が遊歩道を歩っていたろう。――地下道のむこうに外の光が見えてきた。

地下道をぬけると、地下道の出口は、駅前ビルの中枢となる百貨店である。そこは、一つ一つが特徴ある建物で、それが、一体となって、高層化の中心の一つとなっている。駅前と通じて、市の公共、大中央の一つとなっている。駅前と通じて、市の公共、大中央の一つとなっている。駅前と通じて、市の公共、大中央

市制40周年記念特集号

市制40周年記念作文コンクール

市長賞

こんな小田原にしてください

足柄小学校2年　井山幸子

今わたしのすんでいるところには、多古ゆうえんちという小さなゆうえんちがあります。ブランコ、シーソーなどがあります。すべりだいがあるのです。ブランコも、すべりだいもほしいけど、もっともっとほしいものがあります。広いあそび場です。おもしろいっぱとびはねたり、なわとびをしたりボールなげをしたりしてあそびたい。うんと大きな声を出して友だちとあそべるところがいいな。ドッチボールのボールがころがってもたいじょうぶなくらい広いところがいいな。

夏には、プールもほしい。みやぎのにいるおじいちゃんのところには地区にプールがあるのだ。うらやましいな。とときにプールに行くんだって。とてもうらやましい。

わたしになんか、夏休みは子ども会で、学校のプールへつれてってくれるけど、あまりいかれない。小田原のプールへは、学校のきまりでおとうさんか、おかあさんがついていかないといけない。いそがしいのでだめと言われてしまう。もっともっとおよぎたい。うまくなるようになってもっともっとおよぎたい。うまくなるようになってもっとおよぎたい。どんどんおよげるようになってもっとおよぎたい。すいすいおよげるようになってもっとおよぎたい。

もう一つ地区に小さな図書かんがほしい。広場のとこっとうれしいな。つかれたら本も読めるし。ちかくなら一人でもいかれるし。おかあさんも、ゆるしてくれるし。その図書かんには、いつもおじいさんおばあさんがいっぱいになるかもしれないのになあ。おじいさんのそばにいるとどうだったのかなあ。

昔のお話をちかせてくれるといいなあ。おじいさんのそばにいるとどうだったのかなあ。

この問、おわったとしては、となりのうちにいきました。

に入っておねえさんがでてきたらいろいろ、せんこうをしてみたいな。

おばさんがでてきたらいろいろ、たくさんあります。

おばさんがでてきたらいろいろ、石うすをやってみたいな。

石うすで米やむぎを自分でひいてみたいな。

公民かんが大きくなりすぎてあかったら。

ねむっていていろいろなものうそを、そこにあつめて、いつも見られるようにしてほしいな。

そして、子どもたちのすきなようにしてほしいな。

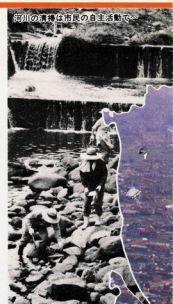
おもちゃやいろいろ、みんなの人、よろこびるとおもう。村のおじさんよりから。

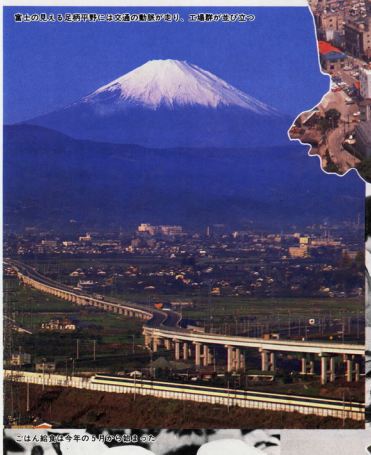
昔のあそびりの話やり、村のかたってきたようすをさいたりするの。それからそとも会もいいな。

それからっ道や町のあちこちに花がいっぱいだといいな。本もうえたいな。みどりのはっぱがきれいなあ。

わたしのおじいちゃんが、「多古のお寺のまえの道は、さくらの木あり。四月になるとさくらのトンネルができたこと」っていました。さくらやうえて、わたしが大人になったときは、そのトンネルをさがしてみたくなったなあ。

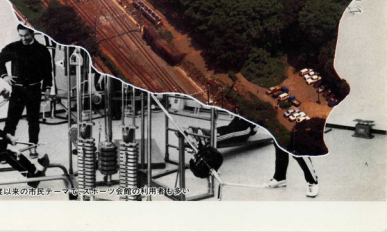
わたしは、思ったことを書いたけれど、わたしが、わたしのおかあさんくらいになったとき、どんな町になっているかなあ。おばちゃんぐらいになったときは、どんなかなあ。ただまえに、どんなかむずかしくって、そうぞうできないけれど、べんりなきれいな町になってほしいな。


河川の清掃は市民の自主活動で


富士の見える足柄平野には交通の動脈が走り、工場群が並び立つ

佐目・金沢地区の人達が新制度発足を控えての意気込み

こはん給食は今年の5月から始まった


体力づくりは52年度以来の市民テーマ。スポーツ会館の利用者もふえた

時の小田原

昭和15年～24年

昭和15年　1月　小田原町・足柄町・大窪村・小田村・酒匂村の一部・山王原・網一色一が併して市制を施行する。

昭和15年　3月　第一回小田原市議会選挙が行われる。初代市長に福田信蔵氏が就任。

4月　国民学校が公布され、市内の各小学校は国民学校と改称される。

6月　市紋章を制定

12月　太平洋戦争が始まる

昭和16年　3月　中学校生徒に対する動員が始まる。

6月　市長に鈴木英朗氏が就任

8月　小田原地方の国民徴用令発令

9月　小田原地方の国民徴用令発令

昭和17年　8月　空襲による市内の一部が焼失

12月　久野相模湾沖の人柏始まる

昭和20年　5月　戦後第一回メーデーが小田原で開催される

6月　原一郎後第一回メーデーが小田原で開催される

食糧配給が五～四日分の

昭和55年12月20日　小田原市議会議事録

◉内務省告示第六百三十三號

市制第三條及町村制第三條ニ依リ昭和十五年十一月二十日ヨリ酒匂村大窪村ノ一部ヲ以テ小田原市ヲ置ク

昭和十五年十二月十八日　内務大臣　安井　英二

昭和十五年十二月二十日、小田原市は前途に大きな希望を抱いて誕生しました。

しかし、時はまさに日本史の最中であり、政府の地方財政政抑制緊縮方針が重くのしかかり、しかも昭和六年の十二月には太平洋戦争へと発展し、国をあげての戦時体制の中で、市勢の伸張は多くを望めない状態でしたが、そして、昭和二十年八月、本市は戦災を受けて終戦・を迎えたのです。

來たぞ！待望の告示
愈々廿日大小田原誕生
歓呼に沸く小田原町役場

待望の小田原市制は昭和十五年十二月二十日を期して実施されました。

酒匂村

山王原網一色地区

3,155 人

640世帯

小田原町

28,080 人

5,678世帯

小田原廢町式
感謝・表彰伏拝式
足柄町　哀しみの哀

足柄町

16,308 人

5,026世帯

松原神社前を行く市制祝賀の幼稚園児の行列（昭和15年）

魚市場前海岸でのブリの陸揚げを見守る人々（昭和16年）

穴部山から第1水源地（鍛冶岡方面）を望む（昭和15年）

小田原駅前の市制祝賀塔（昭和15年）

市制40周年記念特集号

市制40周年記念特集号

市制施行当

6月　市長に佐藤謙次氏が就任

8月　私立小田原商業学校が市立に移管する

10月　選挙管理委員会を設置

小田原商工会議所が発足

昭和22年　3月　自治体警察を設置

4月　町内会・部落会・連合会・隣組が廃止される

初めての小田原市議選挙が行われ、佐藤謙次氏が議長に

6月　市長に佐藤謙次氏が就任

8月　私立小田原商業学校が市立に移管する

10月　選挙管理委員会を設置

小田原商工会議所が発足

昭和22年　3月　自治体警察を設置

4月　町内会・部落会・連合会・隣組が廃止される

初めての小田原市議選挙が行われ、佐藤謙次氏が議長に

6月　警防団が消防団と改称する

カサリン台風により早川の堤防が決壊する

昭和23年　3月　消防本部及び消防署を設置

4月　市中村が小田原市に合併する

9月　アイオン台風により早川の堤防が決壊する

昭和24年　2月　市長選挙で鈴木十郎氏が当選

6月　アメリカ文化センターを設置

6月　城内庭球場が完成

8月　第二回市営競輪を開催

キティ台風により早川の堤防が決壊する

10月　城内野球場が完成

小田原漁港の工事が始まる

市政庁の入選を喜ぶ小田原の生徒（昭和15年）

白丘橋上で千人針の協力に応ずる婦人（昭和16年）

御幸の浜で行われた戦傷兵士の慰問会（昭和14年）

国道1号線で雪だるまづくりに興ずる子どもたち（昭和17年）

曽我丘陵を遠望する田園風景（昭和15年）

市制施行当時

面　積	99.90 km²
人　口	36,939 人
世帯数	10,745世帯
電話台数	1186 台
自動車台数	201 台
小学校数	7 校
予　算	877千円

※参考　市制施行上申書

七夕まつりの飾りを手頃に地面を渡る子どもたち（昭和14年）

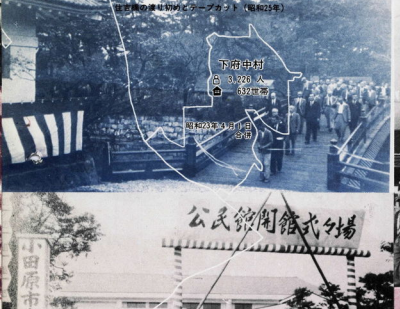
数少ない戦災写真の一枚、手前が去来文旅館の焼け跡（昭和20年）

戦時色の濃い子どもたちの風俗（昭和14年）

再建から躍進の時代

市制40周年記念特集号

桜井村
人口 2,115 人
面積 300 ヘクタール
昭和25年12月18日合併



住吉橋の渡り初めとケーブカブト（昭和25年）

現在の市役所敷地の地に中央公民館が建設された（昭和25年）

大人も子どもとゆっくりと庁舎内を見物客であった（昭和25年）

市勢の伸張は戦後になって手痛い打撃を受け、戦後もんだんとしれた社会情勢の中で、市民生活の安定は難しいと思われました。

しかし、伝統的底力と協力によって小田原市再建の気運は芽生え、目を経るにしたがって力強く伸びてきました。

平和な時代となり、画期的な地方分権の改正も行われ、ようやく市民に笑顔がもどるようになって、昭和二十五年には市制施行十周年を迎えたのです。

昭和25年～34年

昭和25年
1月　矢巻村軍事事業始
3月　酒匂村軍事が進行を開始する
4月　小田原市報第一号を発刊
監査委員を設置
5月　小田原婦人公共職業補導所が設置される
市教育研究所を設置
市教育委員会を設置
6月　全日本軟式野球連盟発足
足柄後援会（市町二市郡）
7月　東日本高校大会（足柄）二連覇
抜萃球大会が開催される
（市制十周年記念）
第一回の成人学校を開設
10月　子どもと文化博覧会を開催
潮騒地・動物園を開設（市制十周年記念）
11月　市民祭当選作品を発表
12月　桜井村が小田原市と合併
11月　中央公民館が完成
国史跡厚木陸軍飛行場
小田原厚生病院を開設
昭和26年
4月　足柄消防出張所を開設
7月　足柄消防出張所を開設
8月　足柄消防出張所が開設される
10月　市福祉事務所を開設
11月　公平委員会を設置
11月　文武修学館を開設
7月　教育委員会を発足
9月　教育委員会を再開発足
昭和27年
7月　文武修学館を再開する
9月　教育委員会を再開発足
11月　選挙管理委員会を発足
昭和28年
2月　市議会議員選挙（任期2年）
10月　第一回の市民文化祭を開催
12月　平和の鐘が取り付けられる
完成
天守台復旧工事が完成

「駅前に建てられた子ども文化博」の塔（昭和25年）

荒廃したまちに、人の心に、復びと活力がよみがえることを願って開催された、城公園における「子ども文化博覧会」には、多くの市民が詰れ、これを転機として小田原市は躍進期へと入っていったのであります。

その後、観光・産業・福祉面での諸策も整備され、周辺町村との合併もあって、小田原市は広大な昭和二十五年には市制施行十周年を迎えたのです。

橋平野の中心都市へと目覚しい発展を遂げていきました。

昭和31年
4月　曽我村の一部が小田原市と合併
5月　都市計画区を指定
国民健康保険共済診療所を開設
7月　酒匂川の市道橋が開通となり絶勝が復活される
8月　消防署小田原分署を設置
伝染病隔離病舎が新築完成

昭和30年
2月　久野配水池の建設に着工
3月　授産場を開設
4月　城山陽球場が完成
6月　豊川村が小田原市と合併
7月　酒匂町・国府津町・上府中村・下曽我村・片浦村が小田原市と合併する
9月　郷土文化館を開設
10月　郷土文化館を開設
11月　早川河岸上地区整理事業に着手（42年に完成）
12月　城山陽球場が完成
城山陽球場が完成
県立荻窪病院が完成
開園された千代市じゃぶ池で軟式野球クラブチーム戦技が行われる
復活第一回の秋天競技が開催される
学生対抗陸上戦技大会が開催される
曽我村の一部が小田原市と合併
昭和29年
2月　郷土文化館を開設
3月　郷土文化館を開設
4月　早川河岸上地区整理事業に着手（42年に完成）
6月　城山陽球場が完成
県立荻窪病院が完成
開園された千代市じゃぶ池で軟式野球クラブチーム戦技が行われる
復活第一回の秋天競技が開催される
学生対抗陸上戦技大会が開催される
曽我村の一部が小田原市と合併

市制40周年記念特集号

万年橋の大火災(1907)を教訓とした(昭和26年)

にぎやかさを取り戻した国道1号(昭和26年)

万年橋は復興小田原の大きな試練だった

ス観光のコンテスト風景(昭和26年)

昭和24年中断した競輪事業は、再建小田原の大きな支えとなった(昭和26年)

市政合併推進運動は中電(昭和28年)7月1日に出力切り替を宣言(昭和28年)

継続に平和の鐘が響いた(昭和28年)

授業用車を交通に開放が開催された(昭和30年)

国道1号線の改修もあって市内重要地点の表記を消した(昭和31年)

皇太子殿下の来訪は繁栄への始まりだった(昭和34年)

9月　国道東海道線小田原駅、村上駅受化義を完成

各地区金融業者長会が結成し

10月　小田原市農業委員会が発足

任　任命制による教育委員が就

11月　尊徳生誕祭が完成

8月　自主財政確保計画を発定

1月　市長に鈴木一郎氏が二選

昭和32年

9月　東海道西高架が完成

7月　国府津駅西高架が開通

8月　新相模湾ホテル(現箱根プリンスホテル)が開業

9月　自由中学校(現小田原市立城内中学校)が開校

10月　森林公園内に観覧施設動物園が完成

11月　巡船がよろ始まる

昭和33年

1月　上水道第二期拡張工事が完成

6月　市立病院第二期建設工事が完成

7月　自治会「町内会」(現自治会連絡協議会)が結成される

8月　敬老会(老人福祉会)結成

9月　自主財政確保計画を策定

昭和34年

3月　早川橋梁修復工事が完成

7月　江ノ島湖畔海岸が完成

下水道十カ年計画事業に着手

11月　「まつの緑」の歌碑が建設される

12月　基幹紀念館が完成、市立図書館・児童文化館として開館

昭和35年

1月　天神町義勇消防隊「五反板」運動が始まる

9月　国道東海道線小田原駅、村上駅受化義を完成

各地区金融業者長会が結成し

10月　小田原市農業委員会が発足

任命制による教育委員が就

11月　尊徳生誕祭が完成

8月　自主財政確保計画を策定

1月　市長に鈴木一郎氏が二選

昭和32年

9月　東海道西高架が完成

7月　国府津駅西高架が開通

8月　新相模湾ホテル(現箱根プリンスホテル)が開業

9月　自由中学校(現小田原市立城内中学校)が開校

10月　森林公園内に観覧施設動物園が完成

11月　巡船がよろ始まる

昭和33年

1月　上水道第二期拡張工事が完成

6月　市立病院第二期建設工事が完成

7月　自治会「町内会」(現自治会連絡協議会)が結成される

8月　敬老会(老人福祉会)結成

9月　自主財政確保計画を策定

昭和34年

3月　早川橋梁修復工事が完成

7月　江ノ島湖畔海岸が完成

下水道十カ年計画事業に着手

11月　「まつの緑」の歌碑が建設される

12月　基幹紀念館が完成、市立図書館・児童文化館として開館

昭和35年

1月　天神町義勇消防隊「五反板」運動が始まる

市制40周年記念特集号

昭和35年～44年

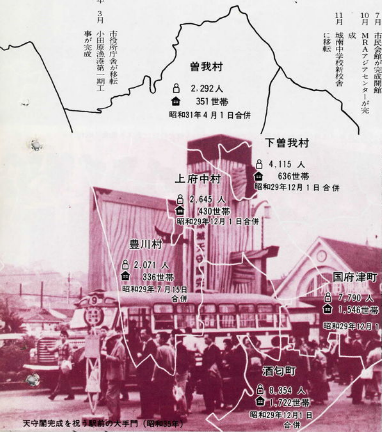
昭和三十年、この年の経済白書には「もはや戦後は終わった」と記されました。
　このころから本市内への工場誘致が進められ、市制二十周年を迎えた昭和三十五年以降は一層盛んになり、本市の飛躍的な発展の基盤を形成することになりました。
　こうした市勢の伸張とともに、市民の願いであり、市のシンボルとしての小田原城天守閣が記念事業として復興され、さらに交通の要衝として東海道新幹線の停車駅をも有するに至って、小田原は伝統の上に立った近代的な都市として往年の名声を得るようになりました。

昭和35年
1月　ガン無料相談を開始
5月　小田原城天守閣が完成（市制二十周年記念）
9月　二宮尊徳生家を誕生地に移築復元
10月　国民年金事務を開始

昭和36年
2月　市長に鈴木十郎氏が四選
　大窪橋が完成開通
　市立酒匂幼稚園が完成
6月　高速堆肥化処理施設が完成
　消防西分署を開設
7月　畑の平にゴルフ場が開場
　第三水源地の送水を開始
10月　県立城北工業高校が開校

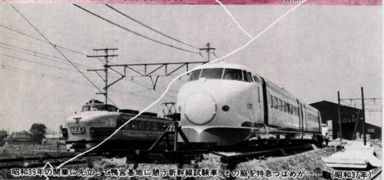
昭和37年
1月　小田原市新市建設計画を決定
3月　天守閣入場者百万人を突破
　故鈴木英雄氏を名誉市民第一号に
4月　妊婦に歯の健康手帳を交付
　青少年補導所を開設
　新しい市民歌が決まる
　市立病院に結核病棟が完成
7月　市民会館が完成開館
10月　MRAアジアセンターが完成
11月　城南中学校新校舎に移転

昭和38年
3月　市役所庁舎が移転
　小田原漁港第一期工事が完成



天守閣完成を祝う駅前の大手門（昭和35年）

市営住宅が続々誕生（昭和35年）


昭和39年の開業に先立って鴨宮基地に憩う新幹線試験車、その脇を特急つばめが……（昭和37年）

本町交差点付近の国道、市民会館も歩道橋もまだない（昭和38年）

市制施行20周年記念特集号

　高層建築対策に消防救助隊を編成
　台風26号により被害
11月　府川じん芥焼却場が一部完成し、操業を開始
12月　消防本部庁舎が完成

昭和42年
4月　泉中学校が開校
　自治会の協力の下に献血事業を実施
5月　市民交通傷害保険（現在の交通災害共済）を実施
　交通安全指導隊が発足
6月　鴨宮駅南部土地区画整理事業に着手
8月　下水道終末処理場で中級処理を開始
10月　第二次住居表示を実施（寿町・東町）
11月　住民登録に代わり住民基本台帳制度を施行
12月　献血推進運動で献血一万人を突破（人口比率で日本一となる）

昭和43年
1月　市魚市場が完成し、操業を開始
　下水道南町ポンプ場が完成
　市立小学校の暖房施設を整備
3月　早川土地区画整理区域内の町名を変更
4月　市民相談室を開設
　西湘バイパス一部開通（国府津～山王橋）
6月　芦子小学校校舎が焼失
　老人・身障者を対象に家庭奉仕員制度を実施
7月　下水道終末処理場が高級処理を開始
　御殿場線の全線電化が完成
12月　明治百年記念に梅の苗木を各施設に植樹

昭和44年
2月　市長に中井一郎氏が就任
3月　小田原厚木バイパスが開通
4月　市立病院の病棟増改築工事が完成
5月　市長と話し合う会がスタート
7月　高田浄水場が一部完成し、操業を開始
8月　県西地域広域市町村圏が設定される（小田原市と足柄上下郡10町）
10月　第三次住居表示を実施（城山）
11月　小田原漁港が第三種漁港に昇格し、県へ移管

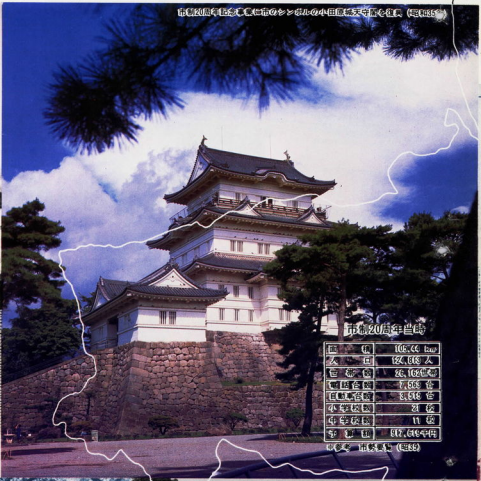
伸張し繁栄する小田原

市制40周年記念特集号

昭和39年
1月　造船大手石川島播磨工事が完成
　　消防署西大久保分遣所が完成
　　県小田原高等学校が完成
　　小田原・国府津間が市内通はになる
10月　ほこう消防車を配置
11月　新幹線開通
3月　中学校の手洗設置が始まる
　　大神池造成が完成
4月　老人健康機能訓練センター完成
　　西湘バイパス建設に着手
6月　塔ヶ峰青少年の家セントラルロッジが完成
9月　東海道新幹線開通　新小田原駅が営業開始
10月　田原駅が営業開始
　　オリンピック東京大会が開催される
12月　久野運動の建設が始まる
昭和40年
2月　軽費老人ホーム「あしがり荘」完成
　　市民会館完成　郡公会堂完成
　　市長・小学校・校舎が完成
3月　上水道第一期拡張工事が完成
4月　し尿処理汚泥処理場が完成
　　し尿処理汚泥処理場が完成
5月　市民会館本館が完成
7月　故河野一郎氏を名誉市民に決定
8月　塔ヶ峰青少年の家開所式
　　相模灰の用地神奈川県へ譲渡
11月　市庁舎事務所等子算機を導入
昭和41年
1月　白山中学校校舎が焼失
3月　都市計画道路・飯泉橋厚木線が完成
　　小田原厚木道路の建設に着手
4月　第一次住居表示実施を実施
　　（栄町・中町・浜町・城内
　　・本町・南町・南町・城内
　　・本町・本町・城内）
9月　上水道第二期拡張工事（第一次
　　拡張工事）完成

天守の屋根にしゃちほこを取付け（昭和35年）

軽費老人ホーム「あしがり荘」完成（昭和39年）

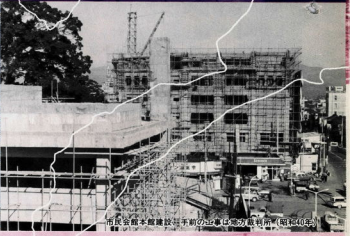

市制20周年当時の小田原城天守閣を復興（昭和35年）

市制20周年当時

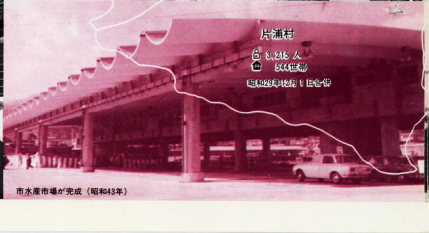
人口	106,466 人
人口	19,866 人
世帯数	26,106世帯
電話数	7,556 台
自動車台数	3,516 台
小学校数	21 校
中学校数	11 校
学級数	317,404円

（資料編　市勢要覧（昭35））

東京オリンピック開催、お祝場を聖火が通る（昭和39年）


市民会館本館建設は千前の上重は第3庁舎新所（昭和40年）

献血運動が普及、この年から献血率は47年間日本一（昭和47年）


市水産市場が完成（昭和43年）

片瀬村

人口 8,215 人
世帯 544世帯
昭和35年12月1日七千

緑と水の豊かな住みよい都市

市制40周年記念特集号

昭和四十五年、この年には、経済大国・日本の力を世界に示した万国博覧会が開催されました。

本市は、市制三十周年を迎え、記念事業として常盤木門を再建しましたが、この高度経済成長の時代には生活環境整備に一段と力を注ぎ、神奈川県西における産業経済に教育文化・交通の中心地となり、県西地域広域市町村圏の核都市としてのめざましい発展をとげました。こうした揺ぎない基盤の上に立って、「緑と水の豊かな住みよい都市づくり」を目標に、市民の健康と教育の充実を中心に、生活文化の向上を図るため施策が次々に展開されたのであります。

東富水小学校が開校（昭和45年）

市制30周年記念事業として常盤木門を再建（昭和46年）

公設青果地方卸売市場が開場（昭和47年）

橋町と合併（昭和46年）

昭和45年～55年

昭和45年
1月　城山中学校が開校
4月　東富水小学校と東富水幼稚園が開校、開園
5月　西湘青物駅が開業
6月　都市計画法による線引きが決定
7月　酒匂川市道整備工事を開始
8月　第一回市民アンケート調査を実施
9月　市庁舎の建設工事に着手
10月　市庁舎の移転に伴う焼却炉の撤去作業
11月　整備計画法指定を受け、整備事業を開始
12月　建築確認・検査業務を開始
1月　市民憲章を制定
2月　市民憲章を制定
3月　市民憲章を制定
4月　市民憲章を制定
5月　矢作住宅団地が開園
6月　酒匂川敷タイクリング場が開場
7月　緑と水の豊かな住みよい都市宣言

市制40周年記念特集号

小田原駅東口広場整備事業が進む（昭和50年）

ゴミの減量と資源の再利用運動が広まる（昭和51年）

サイクリング広場新設（昭和52年）

市庁舎が完成（昭和51年）

区域内の小学校として最初に小学校が開校（昭和52年）

交通事故防止に交通安全指導隊が活躍（昭和53年）

市制30周年当時

面積	105.96km²
人口	165,042人
住居数	44,904戸
電話加入数	42,177戸
自動車台数	31,251台
小学校数	20校
中学校数	12校
予算額	51,416,000千円

（昭和55年　市勢要覧より）

二宮尊徳120年祭記念に建立された「回村の像」（昭和53年）

市長選挙に当選した市長と市民による万歳の三唱（昭和53年）

城山陸上競技場が全天候型陸上に変わった日（昭和55年）

昭和50年
3月　城山陸上競技場の全天候型改修工事が完成（市制四十周年記念）
4月　市民の交通安全啓発を実施
5月　城山公園の大噴水が復活
7月　城址公園の大噴水が復活
9月　自治を見る小田原の歩み（市制四十周年記念）
9月　の16ミリ映画が完成（市制四十周年記念）
10月　旧松永記念館を歴史と文化館分館として開館
10月　高齢者をきい集団が発足
11月　新小田原駅の老人福祉センターが開館
12月　新しい市庁舎が完成（市制四十周年記念）
12月　市内第2号公園が完成（市制40周年記念）

4月　市民テーマ「隣人と語ろう！心の通い合うまちづくり」を提唱
6月　鴨宮駅南口広場の供用開始
7月　地震対策工場が完成
8月　東海地震に伴う地震防災対策強化地域に指定される
9月　小田原城天守閣が開館
9月　小田原城天守閣の入場者が一千万人を突破
10月　印鑑登録・証明制度をカード方式に変更
12月　小田原スポーツ会館が完成
—　各地区に自主防災組織が結成される
—　城山陸上競技場の全天候型改修工事が完成（市制四十周年記念）
4月　市民の交通安全啓発を実施
5月　城山公園の大噴水が復活
7月　城址公園の大噴水が復活
9月　自治を見る小田原の歩み（市制四十周年記念）
9月　の16ミリ映画が完成（市制四十周年記念）
10月　旧松永記念館を歴史と文化館分館として開館
10月　高齢者をきい集団が発足
11月　新小田原駅の老人福祉センターが開館
12月　新しい市庁舎が完成（市制四十周年記念）
12月　市内第2号公園が完成（市制40周年記念）

市制40周年記念特集号

市制40周年の記念行事

市制四十周年を迎えての記念式典は、市制記念日の十二月二十日、市民会館で開催されますが、この日を中心に四十周年記念行事が多彩に繰り広げられます。

特に、記念事業として建設しました中央公民館の開館記念として行われる催物をはじめ、一般市民のみなさんが参加できる行事もいろいろ開催されますので、奮っておいでください。

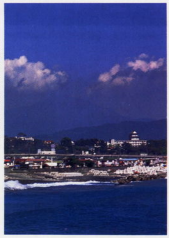
◆12月10日(水)　**小田原市市制40周年記念たばこ発売**
市内一円のたばこ店

◆12月13日(土)　**小田原市民憲章碑の除幕式**
午前8時45分　市役所前庭
小田原市中央公民館しゅん工式
午前9時20分　中央公民館

◆12月18日(木)～21日(日)　**「小田原市40年の歩み」写真展示会**
午前9時～午後5時（ただし、21日は午後3時まで）市民会館展示室

◆12月19日(金)　**小田原市・今市市・姉妹都市調印式**
午後2時　中央公民館ホール

◆12月20日(土)　**小田原市市制40周年記念式典**
午前10時　市民会館大ホール



《中央公民館落成記念行事》

◆1月11日(日)　**小田原茶道連盟新春茶会**
午前10時～午後3時　和室

◆1月16日(金)～18日(日)　**小田原水墨画会会員展**
午前9時～午後7時　大会議室

◆1月21日(水)～25日(日)　**西相美術協会会員展**
午前9時～午後7時　大会議室

◆1月25日(日)　**小田原地方民俗芸能大会**
午後1時30分～3時40分　ホール

◆1月28日(水)～2月1日(日)　**箱根物産伝統工芸展**
午前9時～午後7時　大会議室

◆2月1日(日)　**劇団こゆるぎ座公演「息子」**
午後2時～3時30分　ホール

◆2月8日(日)　**小田原琵琶協会演奏会**
午後1時～4時　和室
小田原フィルハーモニー交響楽団演奏会
午後3時～4時　ホール

記念式典を挙行
市政功労者を表彰

十二月二十日に行われる市制四十周年記念式典では、市勢の伸展及び公共の福祉増進等に永年貢献された方々の表彰を行うとともに、小田原市の基礎を築き、また発展に寄与された今は亡き名誉市民、市政功労者、そして幾多の先人たちに黙とうをささげ、その労苦に感謝いたします。

さらに、市制四十周年記念として「未来の小田原」をテーマに募集しました作文コンクールの表彰と市長賞受賞作品の朗読、そして将来に向かって深い友好のちぎりを結ぶ栃木県今市市との姉妹都市提携披露も行われます。

なお、当日表彰を受けられるみなさんは次のとおりです。

《特別表彰》　（敬称略）
尾崎一雄（作家）　平塚善治　堀口三郎　尾崎正（以上市議会議員）

《一般表彰》
◆自治功労
川崎正次　門松茂夫　今井英龍　石黒明　吉田晴治　荘司悦郎　高村和雄　出口栄次　椎野恵二（以上市議会議員）　内田伊佐夫　山口武利　松本太郎　森本長壽　杉山俊春（以上農業委員）　杉山米吉　原達夫　杉山鶴吉　市川三郎　川久保正男　武田良作　戸塚高治（以上自治会長）

◆消防功労
青木好太郎　野地博　小澤隆原正廣（以上消防団長）

◆教育功労
高井喜雄（図書館児童文化専門委員）　梅本明　湯山臣　高橋英雄（以上体育指導委員）　小田原少年少女合唱隊　相模人形芝居下中座

◆社会福祉功労
矢郷ヨシ子　廣川照一　天利俊明　朝倉一郎　神野公平　富澤芳郎　剱持源太郎（以上民生・児童委員）　小田原市遺族会

◆保健衛生功労
真壁賢二　太田丑五郎　藤本昭義（以上国民健康保険運営協議会委員）

◆産業経済功労
小田原梅研究会　小田原蒲鉾水産加工業協同組合　社団法人箱根物産連合会

なお、式典終了後の午後零時三十分から、市民会館大ホールにおいて四十周年記念事業の一つとして製作された映画「小田原の歩み」の上映が行われます。

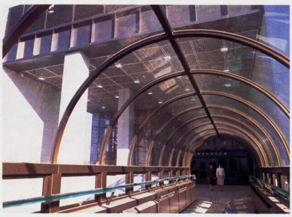
式典参列者以外の一般市民の方も席に余裕のある限りご覧になれますので、おいでください。

中央公民館の開館行事
新春に多彩な催し

十二月十三日にしゅん工式を行う新中央公民館は、昨年十一月に着工、総経費十三億八千六百五十八万円で建設されました。

鉄筋コンクリート造四階建て、延べ面積六千四百七十七平方㍍、一階が駐車場（五十七台収容）、二階は市庁舎二階の市民ホールと連絡通路でつながれ、この会館のメインである舞台付きホール（五百四十人収容）・大会議室（百三十人）・事務室などがあります。三階には図書室・視聴覚室・和室（八十五人）・茶室・暗室、四階には調理実習室・美術工芸室・会議室があります。そのほかに、乳幼児と同伴のお母さん方のための託児室やサークル活動室も設備されています。

これらの施設の開館予定は、会議室など一部が来年一月六日から、その他は二月一日からオープンします。なお、図書室については四月からになります。



これに先立って、中央公民館の落成を記念してのこけら落しに、上記のような催物が行われます。

なお、ホールで行われる次の催物については、市民のみなさんが多数おいでくださるようご案内します。

◆**小田原地方民俗芸能大会**
一月二十五日（日）午後一時三十分～三時四十分
郷土の民俗芸能である、相模人形芝居下中座、小田原囃子、寺山神社鹿島踊、箱根馬子唄、曽我別所寿獅子舞、山王原大漁木遣唄が一度に鑑賞できます。

◆**劇団こゆるぎ座公演**
二月一日（日）午後二時～三時三十分
小山内薫作の「息子」が上演されます。

◆**小田原フィルハーモニー交響楽団演奏会**
二月八日（日）午後三時～四時
なお、中央公民館ホールの定員は五百四十人ですので、お早目においでください。

市民憲章碑
市役所前庭に

十二月十三日には、市民憲章碑の除幕式が行われます。

この憲章碑は、重さ二・二㌧、高さ二・四㍍、幅三・五㍍の本小松石の自然石に刻まれたもので、市役所庁舎前庭の歩行者通路北側に建てられます。

市民憲章は、昭和五十一年七月に市役所庁舎が完成したことを記念して、恵まれた自然と歴史的環境を基盤に明日への発展の願いを込めて定められたもので、市民の一人一人が健康で豊かな心を持ち、しあわせな家庭を築き、隣人と仲良くし、住みよいまちづくりに力を合わせ、そして、明日への繁栄に努めようという、五つ条文から成っています。

小田原市40年の歩み
写真パネルで紹介

穴部から飯田岡方面を望む

この写真展は、昭和十五年に市制を施行して以来、今日までの小田原の四十年の歩みを、その時折の象徴的な写真によってたどったものです。

全体は大きく五つのコーナーに分けられ、四十年の歩みをいろいろな角度から顧みる「項目別に年代を追うコーナー」、昔と今の姿を比較する「今昔対比コーナー」、市制記念事業の歩みを紹介した「市制記念事業コーナー」、そして、新しい姉妹都市を紹介する「姉妹都市コーナー」、年表と図表で市の移り変わりを紹介するコーナーがあります。

特に、市制施行のために上申書に添付された当時の小田原の町の様子を写した写真には懐しいものや珍しいものもあり、みなさんにお楽しみいただけるものと思われます。

また、私たちのまちがたどってきた歩みを顧みて、これからの小田原の新しいまちづくりのための参考にもしていただきたいと思います。

なお、展示は、市民会館二階の展示室で、十二月十八日（木）から二十一日（日）までの午前九時から午後五時まで（ただし、二十一日は午後三時まで）開催しますので奮っておいでください。

記念たばこ
12月10日発売

小田原市の市制四十周年を記念して日本専売公社から記念たばこが売り出されます。

この記念たばこは、マイルドセブン二十本入れで、表に小田原市の紋章と、富士山を背景に波と松を配して小田原城が描かれ、裏には緑と水を象徴する波頭の上に市域を形どり、市の花「うめ」、市の木「くろまつ」それに市役所庁舎と建ち並ぶ近代ビルを配して明日に伸びる小田原が描かれています。

発売は、十二月十日から小田原市一円のたばこ店でいっせいに発売されます。

映画「小田原の歩み」
希望者に貸出しも

市制四十周年記念事業の一つとして製作された16ミリ映画「小田原の歩み」は、私たちの郷土小田原の古代から現代までを、昭和初期の実写フィルムなどを混えて編集された五十分ものの大作です。

私たちの郷土のこれまでの歩みを理解することによって、ますます小田原を愛する市民になっていただくために、多くのみなさんにご覧いただきたいと思います。

十二月二十日の記念式典の折も午後零時三十分から市民会館大ホールで上映しますが、ご覧いただけない方は、市立図書館の視聴覚ライブラリーでフィルムの貸出しを行いますのでご利用ください。

なお、貸出しについては一般フィルム利用と同じく、次のことを守ってください。

○16ミリ映写機操作技術認定証を持っていること。
○商売または政治目的のために利用しないこと

また、16ミリ映写機の貸出しも行いますが、台数に制限がありますので利用申込みは早目にしてください。

◇問い合わせ　市立図書館
電話㉔1055